

新聞に対する認識と、これからの課題

～新聞を身近に感じるために～

神戸市立岩岡中学校 校長 西窪富士男
教諭 福山 未菜

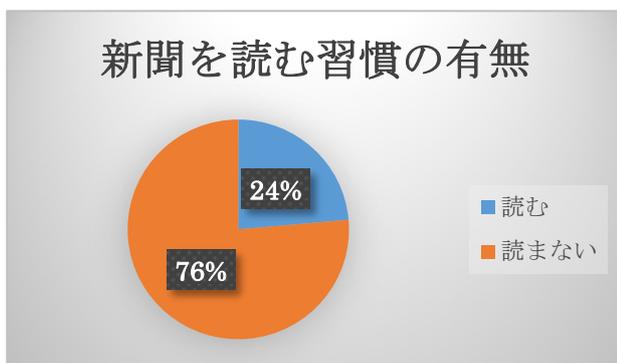
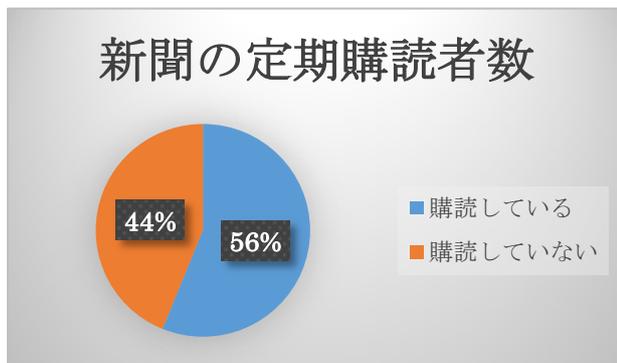
1. はじめに

対象生徒は1年生147人。主に国語科で新聞を活用した授業を行った。

2. 実践の概要

<新聞に対する認識と置き場所>

NIE実践を行うにあたり、あらかじめ生徒に新聞に関するアンケートを実施したところ、以下の実態が見えてきた。



また、新聞を読まない理由としては「面倒くさいから」「購入しておらず読む機会が

ないから」というものが多かった。

新聞に対して、「難しいもの」「大人が読むもの」という思い込みも強く、情報はテレビやインターネット、スマートフォンから入手している生徒が大半だった。

以上の結果から、本校の生徒にとって新聞は身近な存在とは言いにくく、偏った思い込みがあることも分かった。また、活字に慣れていない生徒も多々いる事実も明らかになったため、まずは「新聞に触れる機会を増やす」を一番の目標にした。

そのために新聞コーナーを4階（1年生のフロア）の廊下に設置し、それぞれの新聞を曜日ごとに1週間ずつ置くようにした。

3. 実践の取り組み

<新聞記事を素早く見つけよう！>

①自分の探している記事を

うまく見つけられるかな？

アンケートにより、家庭によって新聞を購入している、していない家がある実態が分かった。そのため、授業で使うのは学校にある新聞（NIEから届くもの）を使用した。

授業では、2人1組のチームを作った。そして各組に新聞を1部ずつ渡し、記事を

どれだけ早く見つけられるかをゲーム感覚で行った。なお新聞は、生徒にとって一番なじみのある「神戸新聞」を使用した。新聞は机の上に置き、常に一つ折りの状態にすることでどの組も同じ条件で記事を探せるようにした。

正平調、地域欄、スポーツ欄、小説、囲碁…と、いろいろな記事を探していくうち、見つけたチームから自然と手が上がるようになった。中でも生徒が最も苦戦していた記事探しは「社説」であった。「社説ってどんな漢字ですか!?!」「何が書いてあるんですか!?!」といった質問も多く出た。

幾つか問題を出すうち、「ここを見たら分かるよ!」と、生徒自身が左上にページが書いてあること、さらに一面に記事のページがまとめて載っていることに気付き始めた。

②コラムとは?

「正平調」の記事を問題に出したとき、新聞を開いて探す生徒が大半で、見つけるまでにかかなり時間がかかっていた。中には「そんなところに書かれているなんてずるい!」という生徒もいた。正平調は神戸新聞のみ記載されており、位置は変わらないことなどを伝えると、「そもそも正平調って何ですか?」「コラムって何ですか?」などの質問が多く出た。生徒と会話をしていくうちに、「天声人語」という言葉の方が生徒に浸透していることが判明した。「短い中で面白い話がまとめられている」と伝えると、多くの生徒がすぐに読み始めていた。

③授業中の様子から

この授業を通して、生徒は新聞の内容を

写真やイラストを見て判断している場合が多く、ページや見出しはあまり見ていないのではないかと感じた。そのため、写真やイラストの多いスポーツ欄や芸能関係はもちろん、なじみが薄い囲碁の記事でも素早く見つけられている。しかし正平調や社説といった文字ばかりの記事になると、なかなか探し出せない。また、「新聞は難しい」という先入観を持っている生徒が多いため、長い記事になるとどうしても読み飛ばしてしまいがちであることも分かった。

一言で見出しと言っても、いろいろな種類がある▽リードの部分を読めばある程度の内容がつかめる▽記事を読む順番は特に決まっていない▽すべての記事を読む必要はないこと一などを伝えた。

最後の5分は自由に新聞を読む時間にしたが、生徒がみな熱心に記事を読んでいる姿が印象的だった。

<実際に新聞を作ってみよう!>

1学期に「宿泊体験学習」で淡路島に行った思い出を、個人新聞で作成した。初めての作業だったため、枠組みや段組みは教員側が指定し、見本となる新聞を印刷したプリントを配布した。

いきなり新聞記事にするのではなく、まずは原稿用紙にそれぞれの字数で下書きし、教員のチェックを受けたのち清書していく手順を取った。記事の場所によって字数が違うため、それぞれの思い出をどの位置に書くかを悩む生徒も多かった。また、余白部分にはイラストを入れた。

夏休みまでかかった新聞製作だが、完成した作品は文化祭での学年展示物として、多くの方に見ていただいた。

< N I E 推進協議会新聞記者派遣 >

11月10日に、共同通信神戸支局の荒井英明記者が来られ、新聞や記者について話していただいた。

新聞が出来上がるまでの過程や、記者という仕事の大変さ、大きなニュースとなった事件の裏話など、生徒も関心を持って聞いていた。

荒井さんには事前に、生徒が書いた宿泊体験学習の新聞についてのアドバイスをさせていただくようお願いしていた。当日は拡大コピーした代表生徒の新聞を見せながら、良いところや改善点を話していただいた。

新聞作成のとき、多くの生徒が苦戦していた「カット見出し」について、どうすれば人目を引く見出しになるのか、その際のポイントは何かなどの話を、特に興味深く聞いていたように感じた。

質疑応答のとき、生徒の疑問を解消していく中で、「新聞の周りがギザギザしているのはどうしてですか」という質問があった。それに対しては「はっきりしたことは分からないが、恐らくロール状態になっているものをカットする際にできるものだろう」

荒井さんの問い掛けに挙手する生徒たち



との回答を頂いた。その後、「着眼点が面白い」「子どもならではの疑問」などのコメントももらった。

講演会中の様子



生徒作成の新聞へのアドバイス①



生徒作成の新聞へのアドバイス②



4. 実践の感想と今後の課題

< N I E 記者派遣による

講演会を受けた生徒の感想>

- ・いろいろな話を聴いて、一つの新しいコーナーをどうやって作っていくのかを尋ねてみたかった。(例：質問ドラえもん など)
- ・大きい見出しだけではなく、小説の欄がお気に入り。新聞であやふやなことを書いて話題になっているが、思っていた以上に苦勞して取材されていることを知り、どのくらい調べているのかが気になった。次からはぜひ新聞を読んでみたい。
- ・新聞のことが今までよりよく分かったし、自分が書いた新聞にアドバイスをしていただけで良かった。
- ・講演会を終えて、たった 30 ほどの記事なのにいろいろな情報があることを知り、今までよりももっとしっかりと記事を読んでいきたいと思いました。
- ・自分の新聞にアドバイスをしていただき、いい経験になりました。大きな事件があったら、すぐに行かなければいけないと聞いて、とても大変な仕事なんだなと思いました。私の家では新聞を取っていないので、おばあちゃんの家に行ったときに新聞を読んでみようと思いました。
- ・海外へ取材に行くときのお金は、会社が出すのですか？
- ・今までは「取材」と聞いたら、質問ばかりして、事件などが起こるとすぐ現場に来

るという嫌なイメージがあったけど、情報のために一生懸命仕事をされているのだなと分かって、良いイメージになりました。

講演の中で、新聞に書かれている事柄は嘘ではないが、新聞社によって書かれ方や内容に偏りがあり、特にコラムの欄では記者の意見や感想が述べられている場合が多いことも話していただいた。

どの新聞にも同じ内容が書かれていると思っていた生徒も多かったようで、驚いた顔が見えた。

< 感想と今後の課題 >

新聞を設置してからしばらくは、多くの生徒が新聞を手に取り、記事を読む姿が見られた。しかし、時間がたつにつれてその数は減っていき、最後には特定の生徒しか読まなくなっていた。授業や集会、朝の S T などで、もっと頻繁に、積極的に新聞を読む呼び掛けが必要だったと感じている。また、「今日はこんな記事が載っている」などの内容紹介を継続して行えば、生徒の関心を向けられると考えた。

最初のアンケートでは、新聞に対する興味があまりうかがえなかった。しかし、授業で質問が多く出たことや講演会中の様子を見ていると、新聞に興味を持っていることが分かった。インターネットやテレビとは違った魅力を、生徒に伝えていきたい。